

Made in Aomori House

県産材

地産地消ビルダー実例 5

- 01 有限会社 岩木建設
- 02 有限会社 キーポイントホーム
- 03 有限会社 大坊建設
- 04 株式会社 大山建工
- 05 企業組合 県木住

Aomori Wood Showroom Renewal

株式会社 今井産業 「2025 ショールームリニューアル」

Aomori Wood Fan Event

チーム県産材 「縁むす日」

Made in Aomori House

01

十和田湖畔にひっそり佇む 籠れる木の家

有限会社 岩木建設

文=井藤 雪香 写真=山本 東
text:Yukika Ito photo:Azuma Yamamoto

いわ木の家



日本の伝統的な技法である大和張りで、木の美しさを引き立てる外観。

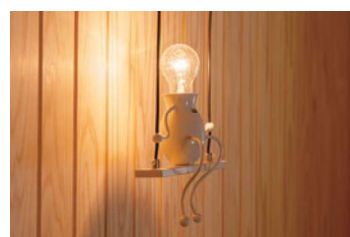
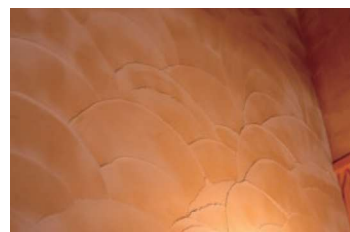
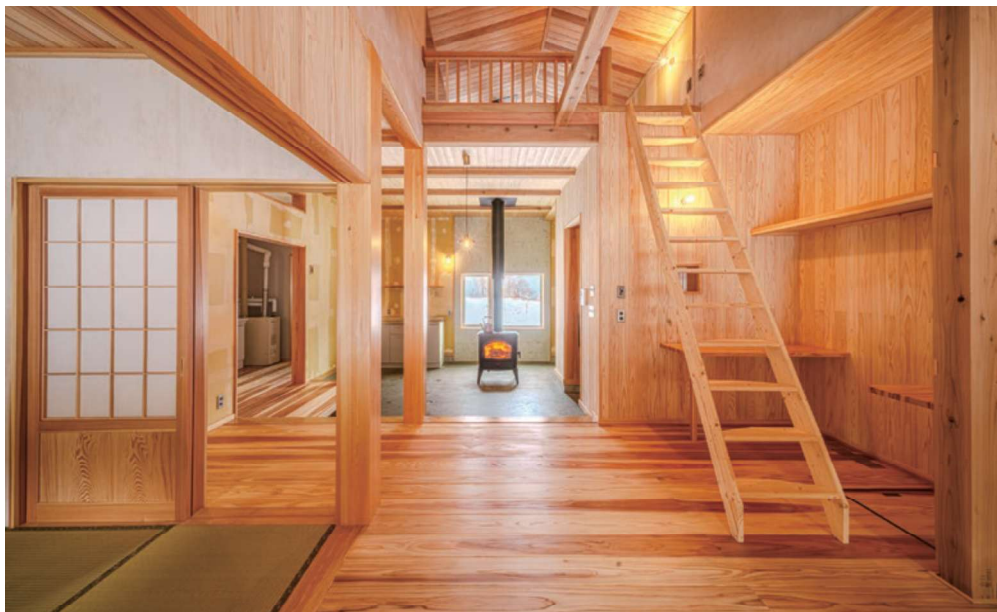
自然と暮らす、平屋の住まい

十和田市を拠点に、大工の技を活かしながら木をふんだんに使った家づくりに取り組む岩木建設。2025年、十和田湖畔に移住して暮らすOさんの住まいを新たに手掛けました。

プランの基本は、木の家であること、ミニマルに暮らせる平屋であること。国立公園区域内の景観になじみながらも、特別な印象を与える板張りの外観は、北海道で腕を磨いた職人の手仕事によるものです。「経年グレーを楽しみたい」というOさんの希望に応えるために、北海道でよく見られるという、無塗装・無加工のカラマツ材を使用した立体感のある大和張りの技法で丁寧に仕上げました。さらに、玄関ポーチに据えた3本の青森ヒバの8寸柱も存在感を放ちます。異なる木の種類による多彩な表情や木組みの美しさで魅せる、まさに木が主役の家です。

玄関の扉を開けると、迎えるのは土間のコンクリートとフローリングの木、壁の漆喰と、異素材が織りなすモダンな空間です。「籠れる空間にしたい」というOさんの希望から開口は最小限。十和田湖の風景を切り取る窓が、一層印象に残ります。よく見ると、キッチン部分の壁の一部は未完成。実はOさんは、「可能性を楽しみ続ける未完の家」というコンセプトも掲げており、「住みながら自分で仕上げたい」と希望したそう。リビングと和室の壁には、青森県産ホタテ貝の漆喰仕上げを。木の梁や変木の柱は空間のアクセントに。さまざまな自然素材や木の表情を楽しめる工夫が施されています。

梁や桁などの横架材に青森県産スギを使用。しなやかな強度で住まいを支え、美しい木目が空間を上質に仕上げる。



暖炉や照明器具はOさんがこだわってセレクトしたもの。高い天井を活かして設けたロフト、ロフトの階段脇の棚を設けたスペースは収納を兼ねている。多彩な木材が、心地よい安らぎに満ちた空間を生み出している。

豊かな暮らしを 実現するデザイン

子どもがすでに独立しており、新天地で新たな人生を送るOさんを優しく包み込むかのような、ぬくもりある木の家。玄関から土間続きでキッチンへとつながる間取りはどこか懐かしく、家の裏の畑で作物を育てたり、DIYを楽しんだりというような暮らしを思い描くOさんに快適さをもたらします。「汚れても気にならず、箒を使った掃き掃除で綺麗にできる作業場が欲しいと思っていました。さらに土間続きの"工房"のような空間も作ることができて最高です。私の十和田湖生活は、このキッチン土間と薪ストーブから始まります」と、Oさんは笑顔です。

土間から一段上がると、素足でくつろぐリビングです。木のぬくもりや開放的な吹き抜け、漆喰壁のラフ塗りの

デザインにより、Oさんの要望である森の中のような空間を実現しています。さらにリビングと一続きになった和室の漆喰壁は竹林を連想する縦模様の左官仕上げとしており、左官技法による違いで異なる自然が響き合うかのような雰囲気を演出しています。

「森をイメージしたリビングと竹林をイメージした和室は同じ漆喰でも異なる味わいで、職人さんの手仕事に感激しています。和室の床柱と、土間の手すりにもなるヒノキの変木の柱は大のお気に入りとなって、毎日何度もスリスリしています。ぬくもりに包まれた安らぎの空間で過ごせることが、とにかく嬉しいです」と、Oさんは豊かな暮らしを満喫しています。

地元の木を使う意味

木は調湿性や断熱性があり、緩衝材としての機能も果たすなど、さまざまな効果で快適な暮らしを支えます。岩木建設が展開する「いわ木の家」の家づくりでは、そんな木の良さを最大限に引き出しながら適材適所で活用。その中で青森県産材もふんだんに使っています。

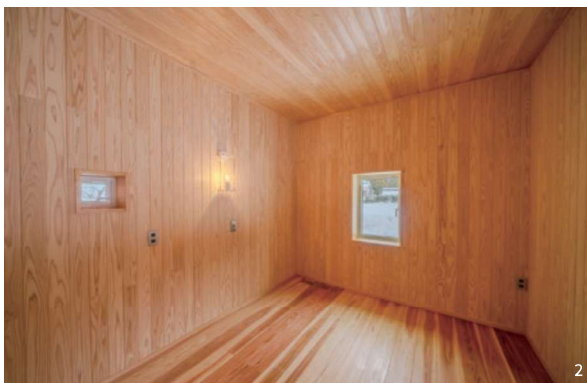
今回のOさん宅でも、県産スギを構造材や天井などに使用しています。「スギは適度な強度があって折れにくく、反る、捻れる、曲がるといった狂いが少ない。すべてを県産材というのは難しい部分もありますが、構造材には積極的に使っています」と、同社の岩木社長は話します。

内装材では、浴室や洗面室などサニタリースペースの壁に青森ヒバをふんだんに使用しています。青森ヒバの持つ消臭・防虫・抗菌効果を活かした配置で、ヒバ特有の豊かな香りを楽しめるのもポイントです。

「寒い土地の木は年輪が詰まっていて密度が高い。そのため同じ国産材でも寒い土地のものなるべく選びます。寒い土地の木が優れているのであれば、まさに青森県産材は最適。地場産の材料を使うことで、気候条件等が同じであることから、無理なく長持ちするというメリットもあります」と岩木社長。県産材を活かした家は、移住してきたOさんの暮らしに安心と豊かさを添えてくれることでしょう。



1. ロフト 2. サニタリースペース



1. リビングの庭側に設けた土間 2. リビング横の寝室

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
 構造及び階数：木造2階建て
 建築面積：89.43㎡
 延床面積：89.43㎡
 完成年月日：2025年12月18日

設計者：いわ木の家設計事務所
 施工者：有限会社 岩木建設

【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバ、柱・梁にスギ
 内装材：床・天井・壁にスギ、壁にホタテ漆喰
 外装材：柱に青森ヒバ、外壁にカラマツ板貼り

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 岩木建設

青森県十和田市大字洞内字井戸頭175-1
 Tel:0176-27-2906 Fax:0176-27-3259
 iwaki@sea.plala.or.jp
 http://www.iwakinoie.co.jp/



Ki-POINT HOME'S

Made in Aomori House

02

セカンドライフを愛犬と心地よく 雪国で叶える ストレスフリーな家

有限会社 キーポイントホーム

文=小田切 孝太郎 写真=有限会社キーポイントホーム 提供
text:Kotaro Odagiri photo:Ki-Point Home's





1. 2階の窓のように見えるのがリビングの採光窓。 2. 光りを抑えたガルバリウムがシックな印象をあたえてくれる玄関まわり。 3. コンクリート部分に融雪システムが敷設されています。 4. 自宅前にゴミを出すのがこの地域の収集ルール。入口のシャッター脇には扉付きのゴミ出しスペースを設けました。 5. 緑が生い茂るのが楽しい花壇スペース。

雪の降るこの地で末長く暮らすために

「はじめは建築屋さんとは知らなくて」。そう話すのは、2024年の11月に完成した新居に夫婦と愛犬のエマちゃんと暮らしているS様の奥様。施工は弘前市に拠点をおく有限会社キーポイントホームで、阿保勝之社長との出会いのきっかけが愛犬でした。「青森県産の木の家で愛犬との楽しい毎日」を理念に掲げる同社では、展示場を「dog cafe 木-point」として開放しています。何気なく訪れたドッグカフェで、温もりある木の良さを体感したS様ご夫婦。しばらくしてから同じ敷地に建つ両親の住まいが空いたこと、ご自身も退職後の生活を考えるタイミングに差し掛かり、新築を決意しました。

かつては4棟がひしめき合っていた約200坪の敷地に建つS様邸。新居の玄関部分は無落雪屋根、居住部は片流れ

屋根という立体感のある外観で、外壁のガルバリウムとサイディングの使い分けがアクセントになっています。

思い描いたのはストレスなく暮らせる家。豪雪地域であるうえ、この広い敷地。理想を叶えるための第一歩が雪対策でした。それを解決するのが井戸水を循環させる融雪システム。玄関周りから駐車スペースまでをカバーし、昨冬は奥様の背丈ほど雪が積もりましたが、雪かきは一度も不要だったそう。一冬で15,000円弱というランニングコストも助けにもなっています。ちなみに勾配屋根はストッパーフなので屋根雪が落ちず、こちらも雪対策に一役かっています。



造り付けの本棚があるご主人の書斎。



併設されたトイレとシャワールーム。
長年の経験がある阿保代表も初めて施工したとのこと。

「使いやすさ」を詰め込んだ県産材の空間

年齢を重ねても無理なく暮らせる家と考えた結果、階段のない平屋という選択をしたS様。「使いやすさを詰め込んだ家なので、面白いところがたくさん」と阿保社長は話します。まず気になったのはご主人の書斎に隣接したトイレとシャワールーム。職業柄、感染症に配慮して、夫婦のどちらかが体調を崩した場合に備え、生活空間を完全に別けられる造りにしました。ランドリースペースには奥様の腰ほどの高さの作業台と、電動昇降式の物干しを造作。たたむ・干す・アイロンがけまでを一カ所で完結できることに加えて、ドラム式洗濯機も20センチほど底上げし、ちょっとした動作の負担を減らしています。その他にも寝室内にトイレを配したり、通路や建具の幅も車椅子に合わせるなど、将来の介助を見据えた気遣いが各所に散りばめられています。

家の中は玄関周りを青森県産ヒバで、他居室の床と天井の羽目板は同じく青森県産のスギを使用。スギの床板はやわらかな足ざわりが心地よい反面、キズつきやすさがデメリットとされ、S様もエマちゃんの爪痕などを心配していましたが、目立つダメージはないとのこと。そして壁には青森県産ホタテの貝殻入り漆喰を使用。コテのムラをなるべく出さないような塗りは熟練の職人ならではの仕事で、漆喰のもつ落ち着いた自然のやさしさを感じられます。

「訪れた方々は『木の香りがして気持ちいい』と言ってくれます。不思議と落ち着くのが県産素材の良さ。この家に住んでから風邪をひかなくなったんですよ」と奥様は大満足の様子。リラックス作用や調湿・抗菌などを持つ県産材のコラボが、空間の快適性を一段と高めていると感じています。



1. ヒバを用いた格子戸が目引く風除室。
2. この空間同様、家の中はスギ材を主体に造作されています。
3. 格子の目隠しはキーポイントホームらしさのひとつ。
4. 壁は調湿、抗菌、消臭効果のある漆喰塗り。
5. 作業台と昇降式の物干しが、家事をアシストしてくれるランドリースペース。
6. 玄関は土間続きでシューズクローク、愛犬の足を洗う水場にアクセス可能。

人にも愛犬にもやさしい家

S様の暮らしを語るうえで欠かせない存在が、共に暮らすエマちゃんです。敷地内にはドッグランスペースを設けながら、家の周囲もぐるりと回遊でき、いわば敷地全体がドッグランのように使えます。玄関にはウォークインでエマちゃんの足洗い場を完備し、日々の散歩後もスムーズな生活を実現しています。

そして家族全員のお気に入りリビング。外から見ると2階建てに見える正体が、天井の高いこのリビングです。勾配天井による縦方向の広がり、斜めに設けた壁が視線に動きを与え、実際の広さ以上の開放感を感じさせてくれます。キッチンからもソファからもテレビや外の景色が自然と目に入り、家族がそれぞれの場所にながら、気配を感じられる設計です。「阿保社長とは『キリンが飼えるね』って笑ってるんです。朝、高窓からリビングに差し込む光がとても気持ちよくて、エマも起きるとリビングに来て撫でられるのを待ってるんですよ」と奥様。愛犬にとってもリビングは安心して過ごせる居場所です。

段差のない平屋の動線、将来を見据えた設備計画、雪と向き合うための備え、そして愛犬との暮らしを支える細やかな工夫。その一つひとつが積み重なり、セカンドライフを楽しく過ごすためのストレスフリーの住まいがかたちになりました。



S様ご夫妻もエマちゃんも一緒にくつろげるドッグランスペース。



圧倒的な広がりを感じさせてくれる木質感たっぷりのリビングは、S様の家造りを象徴するような空間。

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造平屋建て
建築面積：148.26㎡
延床面積：138.94㎡
完成年月日：2024年11月15日

設計者：有限会社 キーポイントホーム
施工者：有限会社 キーポイントホーム

【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバを使用
内装材：床・壁・天井にスギを使用

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 キーポイントホーム

青森県弘前市泉野3丁目11-11
Tel:0172-88-7705 Fax:0172-88-7706
staff@ki-pointhome.com
<https://ki-pointhome.com/>





DAIBOU KENSETSU

Made in Aomori House

03

伝統の木造軸組工法で叶えた、 弓道場のある和モダンな家

有限会社 大坊建設

文=栗本 千尋 写真=松川 雄史
text:Chihiro Kurimoto photo:Yuji Matsukawa



白い外壁に、特徴的な形状の屋根が目を引く外観。

特徴的な形の屋根、 その理由は……？

八戸市を流れる二級河川の新井田川。その近くに、屋根の形状が特徴的な一軒家があります。一般的に屋根の形状は、本を開いて逆さまにしたような「切妻屋根」や、頂点に棟（むね）があり四方向に傾斜する「寄棟（よせむね）屋根」、一方にだけ傾斜がある「片流れ屋根」、四角錐の「方形（ほうぎょう）屋根」などさまざまな種類がありますが、この家は、正方形の対角線を折ってかぶせたような屋根なのです。どうして、わざわざこんな特殊な形状にしたのでしょうか？その秘密は、家の2階にありました。

「施主のK様は弓道の指導者でもあり、自宅に稽古用の弓道場がほしいというご依頼でした。2階にスペースをすることにしましたが、弓がぶつからない3m以上の天井高を確保するため、形状を最適化したのがこの屋根です」

そう話すのは、大坊建設の大坊幸吉代表。大坊建設は田子町を拠点とする建設会社です。青森県十和田市にある「大正昭和ロマン喫茶 段ノDe」の古民家リノベーションなどを手掛けた実績もあり、日本の気候に合った伝統工法である、木造軸組工法を採用しています。木造軸組工法は、構造の堅牢性を高められ、設計の柔軟性にも優れるため、既製工法では困難な構造・意匠のK様邸にも、手刻みでの木組みを選択しました。



手刻みでの木組みには、細部にまで職人技が宿る。

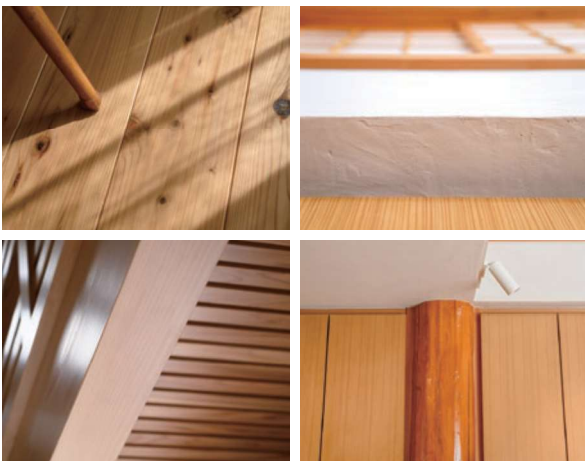
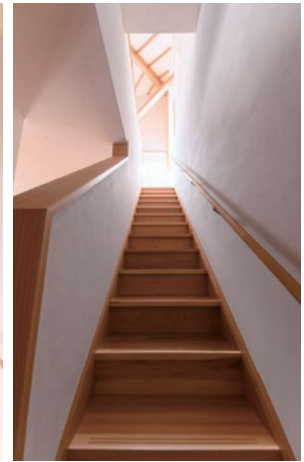
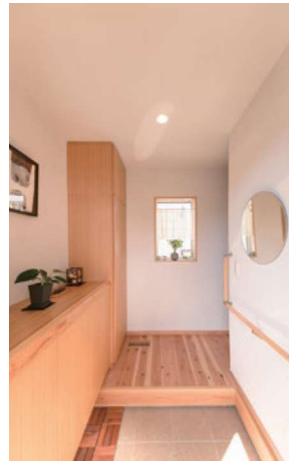


施主のK様のための希望で設えられた弓道スペース。弓がぶつからないよう3m以上の天井高を確保した。

青森県産スギを ふんだんに使用

施主のK様はもともと八戸市内に住居を構えていたが、娘さんとお孫さんのUターンを機に、二世帯住宅を検討するように。施主の奥様は、こう話します。
「大坊さんには以前の住居を建ててもらった縁があり、土地探しからお手伝いしていただいたんです。最終的に、娘世帯とお互いの居場所・独立性を確保できるよう、敷地内に二世帯分離で建ててもらうことにしました」

無垢材の床が心地よい玄関と階段。利便性を考え、いずれも手すりを設置した。



木部塗装は無機系の仕上げで保護し、壁や天井には国産珪藻土を使用。

K様邸は玄関からすでに、ふわりと木のいい香りがします。青森県産スギを中心に使用し、床はスギの無垢材。柔らかく傷がつきやすいものの、水を含ませることで、ある程度は復元が可能です。大坊建設では、福地方面のスギ材を調達し、原木を乾燥させて保存し、必要時に製材。化粧梁や建具なども家に合わせて造作しており、プレカットでは真似できない、自由度の高い設計が叶えられています。木部塗装は無機系の仕上げで保護し、木の温もりを感じられるように。また、壁や天井には国産珪藻土を使用し、調湿・脱臭の機能も備えています。無垢材や自然素材に囲まれ、機能性にも優れた、心地よい家です。

ライフステージに 合わせた動線づくり

K様邸は玄関を入ってすぐ右手側に広々としたリビングがあります。2階の天井高は約4.3m、最大部は約5.5m、1階からの吹き抜け総高は約7mと、吹き抜けと勾配屋根で縦方向の抜けを確保しました。K様ご夫妻は70代なので、地震対応の強度や、維持管理の容易性を最優先。主に1階で完結する動線とし、主寝室は1階に、トイレは1か所にする事で清掃の負担を軽減させました。

住み心地について奥様は、「設計段階で、玄関から直結するリビングは生活感がでてしまうのではないかと懸念していたのですが、いざ住んでみると圧迫感が少なく、動線が良いため、面積は前宅より3～4坪小さいのですが体感的な広がりが増えました」と話します。

吹き抜けの2階部分には和風の意匠が用いられた扉があり、開閉可能。開けば明るく開放的に、閉じれば冷暖房の効率を上げることができます。お孫さんは和風の意匠が好みで、施主様ご夫妻はスタイリッシュ志向のため、設計者の折衷案により和モダンなデザインになりました。お孫さんの評価も上々だそう。

「孫は放課後になると我が家へやってきて、宿題をしながらお母さんの帰りを待っています。この家の和の雰囲気気に入ってくれているので、私たちがいなくなったときは、売ってもいいし、孫が成長したときに住んでもいい。そういう選択肢を残しています」

住みやすさと木の心地よさ、ライフステージの変化にも柔軟に対応する、3世代が行き交う家です。



吹き抜けの2階部分。和風モダンな仕切りを使って個室にもできる。

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：64.17㎡
延床面積：108.78㎡
完成年月日：2025年4月21日

設計者：有限会社設計アトリエ 瀬野和広
施工者：有限会社大坊建設

[県産材の使用状況]

構造材：柱・梁にスギ
内装材：床・手すり・建具にスギ
外装材：下地材にカラマツ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 大坊建設

青森県三戸郡田子町大字田子字下田子69-4
Tel:0179-32-3580 Fax:0179-32-3582
kouki299@leaf.ocn.ne.jp
<https://daibou299.com/>



総高約7mにもなる1階からの吹き抜けが、広々とした印象をもたらすリビング。

